

学校教育目標	幸せに生きる力を育む高須小教育～自分らしく輝こう！～ 校訓：自彊・至誠・夢～		
a ミッション	小中連携の推進による自立性・協働性の育成	a ビジョン	＝継承と創造＝ 「多様性」と「柔軟性」を基盤とした持続可能な教育の推進

評価計画				自己評価							学校関係者評価			改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
主体性・協働性・表現力の育成		○基礎的・基本的な知識・技能を獲得し、見方・考え方を働かせて考え、表現できる児童の育成	○基礎学力定着のための授業改善 ○見方・考え方を働かせて表現する授業の推進 ○学習意欲を高めるモジュール授業の実施	○標準学力調査（国語科・算数科の正答率） ○国語科及び算数科の単元末及び学期末テスト（国語科「知技」「思判表」算数科「知技」「思判表」）	全国平均以上 80%	全国学力・学習状況調査 国語＋7.2 算数＋2 理科＋7.9 国語知技 71.8% 国語思判 78.1% 算数知技 77.6% 算数思判 72.6%		国語知技 89.7 国語思判 97.6 算数知技 97.0 算数思判 90.8	B	全国学力・学習状況調査では、国語科・算数科・理科の3教科全て、全国平均正答率を上回ることができた。特に、国語科と理科は全国平均正答率を大きく上回る結果となった。国語科では、「条件に沿って書く問題」での正答率が高く、前年度から、継続的に短作文や条件作文に取り組んだことが大きくかかわっていると考えられる。算数科でも、無回答率が低く、粘り強く考えて書くことができていた。課題としては、「図形の定義や性質についての理解」「分数の計算を『もとにする数』で考えること」等が挙げられる。 見方・考え方を働かせて表現する授業の推進については、昨年度から取組を進めている「アイテム」を活用した授業の成果として、国語科・算数科の単元末テスト及び学期末テストの結果で見取りをを行った。特に、国語科「知識・技能」と算数科「思考・判断・表現」の定着率が低いことが分かった。「知識・技能」は、繰り返し学習することで定着率を上げることができるので、モジュールの時間の内容を見直していきたい。また、本校で研究を進めている「アイテム」の基になり、「思考・判断・表現」の土台となるものなので、確実に定着するようにしていきたい。さらに、授業の中での操作活動を通して、基礎的・基本的な「知識・技能」の定着率を高めたり、一人一人が考え方を表現する活動を通して、「思考・判断・表現」の力を伸ばしたりしていきたい。	3		この度、小学校を評価する機会をいただきありがとうございます。学力について目標値を達成できていることは、児童への基礎学力の定着を昨年度からの教職員に皆様の継続によるものと思います。基礎的、基本的な学力が定着することで児童一人一人が、勉強が楽しいと感じ、そこからさらに興味を深めていくことで定着が深まるのかなと思いました。引き続き「思考・判断・表現」の力を伸ばしていただけたようしくお願いいたします。 しっかりと成果が出ているというのは素晴らしいと思います。苦手な分野や定着率の低い部分についても改善に向けて工夫されていることがよく分かりました。 繰り返し学習の大切さがよく分かります。文章問題が課題と考えるので、時間をかけて取り組んでほしいです。自分の考えを言える力をつけてほしいです。（自己肯定感を高める）	授業の中で操作を通して学ぶこと、一人ひとりが解き方を表現することを通して、基本的な知識・技能の定着を図っていく。「知識・技能」は、繰り返し学習することで定着率を上げることができるので、モジュールの時間の内容を見直していきたい。また、本校で研究を進めている「アイテム」の基になり、「思考・判断・表現」の土台となるものなので、確実に定着するようにしていきたい。	
		○集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成	○異学年交流の実施 ○児童会執行部や各委員会、当番や係活動を中心とした児童主体の活動の計画及び実施 ○児童のよいところ・良い行動への肯定的な評価	○児童アンケート「高学年：当番や係活動、委員会活動、朝ボラ、異学年交流など、学校のために進んで活動することができた」 「低学年：当番や係活動、朝ボラなど、みんなのために進んで活動することができた」（肯定的回答の割合） ○児童アンケート「自分にはよいところがある」（肯定的回答の割合）	85%	92.9%	109.3	A 児童アンケート「自分にはよいところがある」の項目において、目標値85%に対して95.3%であった。学習場面や生活場面など、学校生活の様々な場面で、教職員が児童一人一人に目を向け、頑張りを認める声をけをしたり、「高須小学校すてきはっけん！」で、児童の頑張りを紹介する取組を続けていった結果だと考えられる。 一方、不登校傾向の児童が一定数いるなど、課題も多い。学校での居場所づくりなど、心理的安全性の高い集団づくりを視点に、取組を進めていきたい。	3	アンケートに対して高学年、低学年とも目標値を大幅に超えていることについて、児童が集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとしていることが感じとれました。また、「自分にはよいところがある」点についても自分をみつめ、大切に思っている児童が多いと思いました。それは教職員の皆様が児童一人一人に目を向けた活動を行うことで、児童が自己肯定感や自己有用感を高めているのだと思います。不登校傾向の児童が一定数いるため、少しでも登校でき、学校で居場所がつかれるよう引き続きよろしくお願いいたします。 異学年交流や様々な活動を通して、子ども達の自己肯定感が高まっていることはすばらしいと思いました。特に、学校のために進んで活動することができた子ども達が思えることもすごいことだと思います。全国的にも不登校の児童の増加が課題だとよく耳にしますが、これから子どもが安心できる環境作りを進めてもらえたらと思います。 異学年交流を通じての活動は自分の生活に良い結果をもたらすと思います。高学年は下の学年の見本となり、責任感を持ち、優しさを持ちます。下の学年はあこがれをもち、上の学年を頼れるので安心感を持ちます。当番や係の活動を通して基本的な生活力がつくと思います。	不登校児童対応研修やアセスの分析等を通して多面的な児童理解を図り、児童のがんばろうとする心をほめて認めていくことを通して、自己肯定感や自己有用感を高めていきます。 不登校傾向の児童を含む全ての児童にとって、安心できる居場所、魅力的な場所であり続けることができるよう、異学年交流や委員会活動等に力を入れ、他者と協働しながら自分らしさを発揮する機会を通して、一人一人が輝ける場を保障していく。 教室が1番の居場所となるためには授業の質を高めていく必要がある。生徒指導的な視点から授業づくりを考え、全員参加を保障できるよう取組を進めていく。				
		○健康的な日常生活を送り、運動に親しむことのできる児童の育成	○生活リズムを整えるための、保健指導と日常的学級指導の実施 ○「できる」「わかる」体育の授業の実現	○児童アンケート「『家庭での決め事』の中で決めた、ゲームやスマホなどの使用時間を守ることができた」（肯定的回答の割合） ○児童アンケート「体育の授業で、できるようになったことや分かるようになったことがあった」（肯定的回答の割合）	85%	89.4%	105.2	A 児童アンケート「体育の授業で、できるようになったことや分かるようになったことがあった」の項目においては、目標値85%に対して、92.8%であった。1学期は、運動会や水泳など、「できた」が分かりやすい運動が多かったことと、指導者がポイントを明確に示しながら取り組んだことが、目標値の達成に繋がっているのではないかと考えられる。 しかし、「『家庭での決め事』が守れていない。」「できるようになったことや分かるようになったことはない。」と回答する児童が固定化されてきているという課題から、2学期は保健指導を通して、ゲームやスマホを長時間使うことで起こる身体への影響を児童に伝えていきたい。また、体育科の学習では、児童同士が「分かったこと」や「できたこと」を伝え合う機会を設けたり、児童が「やってみたい」と思える場づくりを行ったりしていきたい。そして、健康的な日常生活を送り、運動に親しむことのできる児童を育成していきたい。	3	児童アンケート「『家庭での決め事』の中で決めた、ゲームやスマホなどの使用時間を守ることができた」の項目において、目標値85%に対して、89.4%であった。睡眠やメディアとの付き合い方に関する指導を、5月は、運動会に向けて、児童が自身のパフォーマンスを上げることができるよう、ゲームやスマホなどの適切な使用時間や睡眠の大切さについて、6月は、水泳の学習が始まったことや暑くなってくことから、万全な体調で1日安全に過ごすことができるように、「Netモラル」を活用して行った結果だと考えられる。 児童アンケート「体育の授業で、できるようになったことや分かるようになったことがあった」の項目においては、目標値85%に対して、92.8%であった。1学期は、運動会や水泳など、「できた」が分かりやすい運動が多かったことと、指導者がポイントを明確に示しながら取り組んだことが、目標値の達成に繋がっているのではないかと考えられる。 しかし、「『家庭での決め事』が守れていない。」「できるようになったことや分かるようになったことはない。」と回答する児童が固定化されてきているという課題から、2学期は保健指導を通して、ゲームやスマホを長時間使うことで起こる身体への影響を児童に伝えていきたい。また、体育科の学習では、児童同士が「分かったこと」や「できたこと」を伝え合う機会を設けたり、児童が「やってみたい」と思える場づくりを行ったりしていきたい。そして、健康的な日常生活を送り、運動に親しむことのできる児童を育成していきたい。	3	昨日、SNSから犯罪などに巻き込まれてしまうケースがあることを耳にします。大人（自分も含めてですが）だけでなく子どもも依存とまではいかないと思うのですが、ゲームやスマホを長時間使うことが多いと思います。長時間使用することが起こる身体への影響があることを学校・家庭から児童へ、伝えていけるよう協力していきたいと思いました。また、体育、クラブ活動やPTA活動（ソフトバレー大会）を通じて運動が楽しいと思う児童が増えることでゲームやスマホからはなれ健康的な生活がおくれるのではと思いました。 ゲームやスマホなどの使用時間、睡眠やメディアとの付き合い方はこれらももっと重要で必要になると思います。昨今のSNSでのトラブルに子ども達が巻き込まれないよう、合わせて伝え続けてほしいと思います。体育の授業での、やってみてほしいと思えることが意欲につながると思うのでやってみてほしいと思う場づくりはよいことだと思います。 家庭での決め事はとても大切です。基本は早寝早起き、朝ごはんだと思います。生活リズムを大切に、心も育てていきたいです。児童だけではなく、保護者にも説明をして理解してほしいです。自信をもち、笑顔あふれる生活を、笑うと楽しくなるので健康的に過ごせたらよいと思います。	ゲームやスマホを長時間使うことによる体への影響を伝えることや、SNS等のトラブル巻き込まれないように正しく付き合っていくことに関する指導は、継続して行っていくことが必要だと考えられる。学級指導や、保健指導を通して、児童に伝え続けていく。また、学級懇談会や便りを通して保護者への周知をし、学校と家庭が連携して取組を進めていく。 体育等を通して、児童が様々な運動遊びを知る機会を設け、児童が日常的に運動に親しむことができるようにしていく。また、児童は「できた」と思った時に楽しさを感じると考えられるため、「スマールステップと声かけ」をキーワードに、できたと感じられるような場づくりやルールの設定に取り組む。		
連携・協働する		○学校全体でベクトルを揃えた学校運営の実現	○主任・主事を中心とした組織としての目標設定及び方策の進捗管理の実施	○教職員アンケート「学年会で意識統一したことを徹底している」（肯定的回答の割合）（チェック項目3／4以上）	80%	100%	125	A 教職員アンケート「学年会で意識統一したことを徹底している」の項目において、目標値を達成することができた。7月は、全教職員が肯定的回答（チェック項目3／4以上）であった。今年度は、全教職員の取組が「ベクトルを揃えた学校運営」に繋がるものになるように、意識統一したことを徹底させるために、「一日一回プチ学年会」を開き、日々の業務や子供たちの様子について、細かいことも「報告・連絡・相談・確認」が行えるようにした。しかし、様々な取組の中で、「報告が遅れた。」「ただ業務をこなすだけになってしまった。」などの反省点もみられた。多くの行事を控えている2学期は、業務や取組の見通しをもつだけでなく、その意味や目的も全教職員で共有し、様々な指導の中で「子供たちの成長した姿！」「子供たちの未来の姿！」を考えた「見通しのその先」を意識して、全教職員でベクトルを揃えて取組を進められるようにしていきたい。	3	教職員の皆様方による「一日一回プチ学年会」が実施されていることで、「報告・連絡・相談・確認」が行われており、連携や協働していただいていると思いました。ただ、反省点にあるように、日々の多忙な業務などで児童へ目を向けることで時間が足りないという点について、一人の親として反省しないといけないなと思いました。引き続き「子供たちの成長した姿」へ目を向けて取り組んでいただけたようをお願いいたします。 児童数が少し減っているとはいえ、先生方の業務も多忙の中報告・連絡・相談・確認を徹底しようとして取り組んでいることはすばらしいと思いました。多くの行事がある時は子ども達も集中力がかけたりと先生方も大変になると思います。「ただ業務をこなすだけになってしまった」という先生が増えないことを願っています。 達成が100%。すばらしいです。1日1回プチ学年会、良いですね。続けていただきたいと思います。	学校教育目標の実現に向けた様々な取組の評価を、子供たちの姿を通してできるように、「一日一回プチ学年会」の中で、子供たちの様子についてしっかりと「報告・連絡・相談・確認」を行っていく。 4部会や学年会で進める取組について、全教職員がベクトルを揃えて取り組むことができるように、その意味や目的、目ざす子供像を明確にして進めていく。 全教職員が、「授業力・教師力・人間力」を、さらに向上させることができるように、授業づくり研修を引き続き行っていく。				

【自己評価 評価】
A: $100 \leq$ (目標達成)
C: $60 \leq$ (もう少し) < 80

B: $80 \leq (\text{ほぼ達成}) < 100$
D: $(\text{できていない}) < 60$

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。